

サイバー犯罪被害防止へ

ネット利用の安全対策探る

川奈神党
団議県

携帯電話やパソコンを利用する子どもたちがインターネットを悪用したサイバー犯罪やトラブルに巻き込まれるケースが増えていることから、公明党神奈川県議団(鈴木秀志団長)は13日、県庁内で犯罪の実態や被害を防止する安全対策などについて、県警察本部サイバー犯罪対策センターの職員らと意見を交わした。

子どもたちが出会い系サイトをはじめ、ゲームやプロフィールサイト(プロフィール)などのコミュニケーションサイトを通じて知り合った人への会い、殺人や誘拐、性犯罪の被害に遭う事件が後を絶たない。昨年上半年に出会い系サイトにきっかけにして犯罪被害に遭った18歳未満の子どものは全国で141人、それ以外のコミュニケーションサイトを通じて同様の被害に遭った子どもは601人に上っている。

こうした被害を防止する対策の一つとして、子どもの携帯電話やパソコンから有害サイトへの接続を制限するフィルタリングの活用がある。しかし、アクセス制限がないサイトで犯罪に巻き込まれたり、フィルタリングが義務化されていない携帯型ゲーム機からネットに接続して犯罪被害に直面する場合もあり、決して安全とはい切れない。

このため、同センターの職員は、親子でネ

ット利用に関するルールを決めたり、正しくネットを利用するためには必要な判断力や責任力、自制力を育てながら、成長段階に応じたフィルタリングを設定する必要性を指摘。こうした対応を学校現場で保護者に強く訴えているという。



子どもを狙ったサイバー犯罪対策について担当職員らと意見を交わす党神奈川県議団

鈴木団長らは、「子どもたちをサイバー犯罪から守るため、さらに有効な安全対策の実現に向けて全力を尽くしたい」としている。